



カトリーヌ10世
Catherine X

Profile グローバル化が進む
社交界事情にも通じる。密かな
趣味は人間観察とコスプレ。
好きな飲み物はモンラッシュェ。
日本ではほとんど
知られていない、ある小国の
女王とのウワサも?

05 Lifestyle

男たちよ
目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ

Theme

コロナの 時代の愛

各

国でロックダウンが続き、刻々と状況が変化しておりますが、人となるべく会わないこと、会っても「社会的距離」として短めに切り上げること、という感染症対策のルールはしばらく変わらないと思われまます。

かような状況ではデートするにもリスクが高く、リモート恋愛にならざるを得ない関係も少なくないでしょう。会えない恋愛関係では、寂しさやコミュニケーションの面倒くささ、疑念や別の誘惑が勝り、時間とともに気持ちも冷めて自然消滅というケースも多い

と聞きます。それはおそらく、「どうしてもこの人でなければ」というほどの愛ではなかったということでもありますがね。新型コロナは、多くの真実をあぶり出します。

それにしても、人はどのくらいの期間、リモート恋愛に耐えられるのでしょうか。それを考えさせてくれるひとつの小説(映画化版もあり)が、「コレラの時代の愛」です。原作はコロンビアのノーベル文学賞作家、G・ガルシア・マルケス。

時代は内戦に次ぐ内戦と、コレラの蔓延により秩序が崩壊していく19世紀末から20世紀初め。17歳で恋に落ちたフロレンティーノは、お相手フェルミナが裕福な博士と結婚しても思いを諦めず、彼女の夫が亡くなるのを待って、ようやく告白するのです。「わたしはこの時がくるのを待っていた。もう一度、永遠の貞節と変わることの

ない愛を誓いたい」と思っている。51年と9カ月と4日、リモートだった76歳と72歳のカップルは、ここにおいてようやく結ばれるのでした……。恋愛というより片思い、執念に近いですが。

ただ、主人公の純愛もひと筋縄ではいかず、独身を貫く51年ちよつとの間に、600人の女性と関係をもつのです。複雑でロマンティックな主人公を、映画版ではハビエル・バルデムが怪演します。デートもままならぬこの時期に、鑑賞してみてください。そしてコレラの時代もコロナの時代も、執念、もとい、本物の愛だけが生き残りうることに「目覚めなさい」。

